

平成 30 年 8 月 2 日

倉敷市真備地区廃棄物収集運搬の災害支援 4 日目。

今日は、自衛隊が撤収したことにより自衛隊との連携ではなく、我々のごみ収集車（交野班）が昨日に引き続き真備町箭田地区の住宅街を担当することとなりました。

昨日収集した市営箭田東第二団地を確認した後、道に被災ごみを排出することができない高齢者の家からの搬出と収集運搬を優先的に行いました。被災地ではごみ収集の人手が足りません。

高齢者のお宅では、特に水を含んだ畳などの搬出が進まず、家屋内に溜まった土砂をまとめた土嚢の搬出等、重量のある物が残っており、日々の天候、気温の影響から異臭がきつく、衛生面が心配です。

住宅街の被災ごみの収集を行っていると、家屋の屋根に流されてきたであろうテレビが乗っていたり、2 階の壁には、河川氾濫により街を襲った水の水位の跡が残っており、自然災害の恐ろしさを目の当たりにしています。

この地域では、高台になっている場所にも住宅があり、水害を免れている家もあります。少しの高低差での被害の差にただ驚くばかりです。

また、被害にあわれた住民の方は同地域の二か所の小学校で避難生活をされています。慣れない場所での不便な生活に、心身ともにお疲れであるとは思いますが、その疲労の蓄積度合いは、安易に想像できるものではありません。

住民の皆様のほとんどが避難所におられるこの地区では、街の様子は閑散としています。

我々は、被災ごみの収集運搬の作業を通して、被災現場を目の当たりにして、被災ごみの家屋からの排出、収集運搬作業を経験させていただき、終わりが見えないことのない、目の前の現状がある中、不便な避難所での生活を余儀なくされている被災者の皆様に対して胸が張り裂ける思いです。

月曜日にこの地に来て、この派遣期間、作業終了後、宿舎に戻り食事の時に毎日、作業の中で感じた事、経験できたことを話し合い、情報共有を行い、常に「何ができるか」「何を準備すればこの作業が効率的に行えるか」をテーマに話しています。

限られた期間ではありますが、少しでもこの地域の皆様のチカラになれるよう精一杯頑張ります。

また日々派遣職員が自ら感じ、報告に記しているように、この貴重な経験を交野市職員として交野市の災害対応の財産となるよう吸収して帰りたいと考えます。

残された派遣期間全力で取り組みます。

交野市環境部環境事業課

倉敷市真備地区災害廃棄物収集運搬支援派遣隊 赤楚 雅邦